

別添5

平成31（2019）年度スケトウダラ太平洋系群の 管理基準値等に関する研究機関会議提案

国立研究開発法人 水産研究・教育機構並びに、共同実施機関は、平成31（2019）年度スケトウダラ太平洋系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、平成31年度資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

管理基準値

- ・ 目標管理基準値は、 SB_{msy} で 220 千トン。
- ・ 限界管理基準値は、これまで B_{limit} として使用してきた親魚量の最小観測値 SB_{min} で 151 千トン。
- ・ 禁漁水準は、 $\beta = 0.8$ で漁獲を続けた場合でも 10 年間で目標管理基準値へ 50% の確率で回復する閾値 70 千トン。

チューニングパラメータ β

- ・ 親魚量が限界管理基準値を下回るリスクをさけるため標準値である $\beta = 0.8$ 以下にすることが望ましい。
- ・ $\beta = 0.8$ であれば中長期的に目標管理基準値を 50% 以上の確率で維持できる。

その他

- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用するデータは、平成 30（2018）年度本系群の資源評価で推定された 1981～2014 年漁期の加入量および親魚量を用いた。
- ・ 10 年間 $\beta = 0.8$ で漁獲を続けても限界管理基準値へ 50% の確率で回復する親魚量の閾値は 30 千トン。
- ・ 短期的に親魚量が 50% 以上の確率で目標管理基準以下に減少するのを避けるには β を 0.7 以下にする必要がある。